

富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
平成30年度第2回 人材育成専門部会（要旨）

1 日 時：平成31年2月21日（木）15：00～16：30

2 場 所：富山県庁4階大会議室

3 説明事項

- (1) 富山県の人材確保と人材育成について
- (2) 平成30年度 県中小企業振興施策（実施状況）について
- (3) 平成31年度 県中小企業振興施策（当初予算）について

4 委員からの主な意見

- ・インターンシップについて、学生の思考は大企業や公務員に偏りがちで、中小企業ではミスマッチの状況が発生している。来年度新たに行う先進的なインターンシップモデルの構築に期待する。
- ・障害者雇用ゼロ企業へのアプローチについては、職場の雰囲気づくりや、より良い人間関係の構築など、企業意識改革に取り組んでいただきたい。
- ・中小企業には、大手と比べて障害者雇用に関するノウハウを持った人材が少ない。専門的な人材を地域で活かす仕組みづくりが必要。
- ・業界によっては、外国人技能実習生制度と新しい外国人受け入れ制度が併存していくか否かで不安を持つ方もいる。

（富山県中小企業団体中央会 伊豆委員）

- ・県内の高卒生は、平成32年度以降1万人を切り、以降減少していくことが見込まれている。今後、人材の確保がより一層難しくなることから、北陸職業能力開発大では、省力化という意味でロボット教育も始めており、企業には、このような人材の活用も進めていただきたい。

（北陸職業能力開発大学校 上田委員）

- ・人材活躍推進センターの創設については、大変すばらしい政策だと感じる。小規模事業者の中には、派遣労働者や外国人技能実習生を増やし、その場しのぎで人手不足を補う場面もあるが、来年度、外国人技能実習生の受け入れ制度を充実いただいたので心強い。

（富山県商工会連合会 上野委員）

- ・人材活躍センターの創設を含め、多くの施策に手を打っていただいてありがたい。就労を望む女性支援について、女性財団としても当該センターと連携して進めていきたい。
- ・女性が働きやすい職場は、高齢者、障害者、外国人も働きやすい職場だと思うので、企業がそれぞれ持つ魅力をより県民に伝わるように工夫いただきたい。また、男女参画関係の事業の中で、家事・育児の分担を進めるキャンペーンも実施されるということで、この部分についても期待したい。

（公益財団法人富山県女性財団 齋藤委員）

- ・企業情報のHPを作ったとしても、最終的に企業のHPの内容が不十分では意味がない。富山商工会議所では、分かりやすく、好感が持てるHPを表彰することで全体のレベルアップを図る取り組みを実施している。

(富山県商工会議所連合会 富田代理)

- ・連合では、女性の活躍推進について、男女雇用機会均等法や女性の活躍推進法に関する取り組みなどを、労使の中で取り組んでいくといった方針を立てている。また、若者の定着については、雇用のミスマッチによる早期離職防止の視点で、ワークルール等労働に関する教育に力を入れていくほか、経済的負担軽減に向けて、奨学金返済の滞納解消への取り組みも進めていく。
- ・高齢者雇用については、65歳以上の継続雇用年齢の引き上げに向けて、職場環境の充実を労使の中で取り組んでいく。
- ・入国管理法の改正により、今後、外国人労働者が増えていく中で、その方々が住みやすい街、働きやすい職場環境はどのようなものかといった部分で、今後課題を整理していくとともに、関係団体とも連携しながら、外国人労働者のケアをしっかりとしていきたい。
- ・障害者雇用について、不当な差別をなくすための努力やワンストップでの相談体制の充実に取り組んでいきたい。

(日本労働組合総連合会富山県連合会 浜守委員)

- ・来年度、富山労働局では、若者の人材確保対策として、学生向け就職ガイダンスの実施や地元企業に対する理解を深めるための就職支援セミナーの開催に特に力をいれていく。また、高校生に対する職業意識形成として、インターンシップの受け入れ事業所の拡大にも努めていく。

(富山労働局 東井代理)

- ・人材活躍推進センターが設立されるということで、これから多様化していく人材に対して、ワンストップで支援を行う体制を整えていただいたことに感謝したい。その中で、女性の立場から言うと、センターの機能を最大限活用するためにも、土日の開設や託児所の設置など、より女性が利用しやすい様に環境を整えていただきたい。また、女性が就職を考える際、仕事内容とあわせて、育児など職場環境が充実しているかも重要になる。インターンシップのお話もあったが、女性向けの職場体験といった仕組みも考えていただきたい。

(日本労働組合総連合会富山県連合会 前野委員)

- ・移住支援金は、人を呼び込む有効なツールをして期待できる。今後、企業等への周知に特に力を入れていただきたい。同時に、都市部を比べて物価が安い、富山は住みやすいといった魅力発信にも力を入れていただきたい。

(一般社団法人富山県労働者福祉事業協会 宮越委員)

- ・人材活躍推進センターの創設やHPの集約化、就職情報共有のシステム化など、来年度から富山県の就職支援体制が更に強化されることを評価したい。

当該センターの創設が更に実りのあるものにするためにも、企業側からの情報発信も重要になる。

(一般社団法人富山県経営者協会 矢坂委員)

- ・教育の立場からいうと、インターンシップの参加率はまだまだ低い状況にある。離職率を下げるためにも重要なツールとなるのだが、学生側もその重要性を分かっていないことが多い。引き続き、学生の参加を促すような企画を考えていただければありがたい。

(富山国際大学 長尾部会長)